

うつくしまトライアスロン in あいづ
(東北トライアスロンサーキット第7戦)
ケミカルレースレポート

平成 24 年 8 月 26 日

申込者 520 名・最終エントリー 498 名

総 合 (51.5 km) : 2 時間 04 分 39 秒 (2 位、東北 1 位)

スイム (1.5 km) : 21 分 42 秒 (8 位)

バイク (40 km) : 1 時間 01 分 02 秒 (1 位、通過 1 位)

ラ ン (10 km) : 41 分 55 秒 (15 位)

天候：快晴 気温：35℃

東北トライアスロンサーキット第7戦、「うつくしまトライアスロン in あいづ」。

この大会は、福島県猪苗代町の猪苗代湖を泳ぎ、磐梯山を眺めながら会津若松市まで下り基調の高速バイクコース、会津大学周辺を走るコースである。

本大会は、スタート地点とゴール地点が約 40 km 離れているため、オリンピックディスタンス (51.5 km) の大会にしては珍しい、前日バイク預託となっている。そのため、レース前日、試走を終えてからホルメンケミカルによるメンテナンスを行った。

まずは、「スポーツクリーン」と「ライニガー」によりチェーンや金属部分の汚れを落とす。この二つは、どんな汚れも落としてくれるので、この工程の後のオイル注入には無くてはならないものである。汚れを落とす際に使用するのは、もちろん「ケアフリース」。ケアフリースは、ギュッとチェーンを握って回しても解れることはない。さらに、間違っ



施工前 (練習でも極度の汚れはない)



施工後 (ピカピカでモチベーションも up)

リー部分に挟まった場合、伸びることはあっても破けてチェーンとの間に挟まってしまいといったことはない（タオルで行うと、小さな繊維がチェーンの隙間に入り、せつかく油分を落としても意味がない。さらに、プーリーに挟まると大変）。この工程で大事なことは、「完全に落とす」こと。私は、ケアフリースでチェーンを拭き取って「黒色」が無くなるまで落とす。

その後、「ルーベンスピード」を、チェーン全体にコーティングするようにまんべんなく吹き付ける。チェーンの上側、下側両側から丁寧に行うことでコーティングがしっかりとできる。ルーベンスピードは乾きが早く、うっすらと白く見えるためわかりやすい。

コーティングした上から、メインとなる「ルーベエクストリーム」をチェーン1個ずつ、こちらを上側、下側両側から塗布する。塗布後、馴染ませるために前回し・後ろ回しを20回転ずつ行った。ここで重要なのが、ルーベエクストリーム塗布後「時間を置く」ことである。何故かというルーベエクストリームは他の製品よりも馴染むのに時間がかかるためである。しかし、馴染むと効果は絶大。吃驚するようなスムーズな回転が待っている。

しばらく時間を置いてから、ケアフリースで余分なオイルを拭き取る。最後の工程として「ダートプロテクター」を吹き付ける。これにより汚れが付きにくく、万一、雨が降ったとしてもスムーズな駆動が保たれる（酒田大会・象潟大会レポート参照）。

この一連の工程を終えて、前日バイク預託を済ませた。もちろん、バイクには雨除けのシートを被せ、対策は万全に。

レース当日、朝から強い日差しが印象的であった。朝から気温は30℃近くに達していたため、暑いレース程集中すれば結果が付いてくる！と意気込んでいた。本レースも、テーマはバイク。今回から新しいバイク（機材）ということもあり、気合い十分であった。

スイムは浜から200m沖に出た地点から、650mの三角形のコースを2周し、浜へ戻ってくる1500m。湖であるため波は無く、大変泳ぎやすかった。スイムは8位で終え、バイクへ飛び乗った。

バイクコースは、

0～4 km：住宅街を通る鋭角なコーナーもあるテクニカルなコース

4～8 km：ほぼ平坦で風もない

8～14 km：なだらかに上り、弱い向かい風

14～33 km：下り基調、追い風

33～40 km：なだらかなアップダウン、90度コーナー有、向かい風

（距離に若干の誤差あり）

と、前日の試走で分析していた。このコースを攻略するために立てた作戦のポイントは「14 km地点までの入り方」と、「33 km過ぎてからの仕上げ」である。14 kmを過ぎると、大きな道路に出、下りが基調で速度も出るため差が出にくい。しかし、14 kmまでのコースは、全体的にみてテクニカルで緩やかであるが上り基調。ここで突っ込みすぎず、抑え過ぎずいくこと。また、33 kmを過ぎてからは上り有、向かい風、さらには疲労も出てくる頃であるた

め、きっちりと最後まで集中して仕上げる。これら二つのポイントを攻略することでバイクでトップに立てると確信していた。

バイクに飛び乗ってから、呼吸を整えながら DH ポジションで重めのギアを回転させた。



乗った瞬間から、いつもより軽く感じられるのが「ホルメンケミカル」の良いところ。回転がスムーズで、ストレスなくペダリングができた。最初の約 4 km 地点までは住宅街を通るため、ギアチェンジが何度かあったが、金属音はスムーズな良い音。

約 6km 地点の折り返しまでに 2 位に上がり、トップとの差を確認。日差しの暑さが背中から感じ取ることができたが、ここは集中。

重めのギアを踏ん張らずにスムーズな回転で進み、ポイントとしていた「14 km 地点」を過ぎたところでトップの背中が大分大き

くなっていた。そして約 20 km でトップに立った。しばらくは下り基調であるためアウタートップで呼吸を乱すことなくペダリング。

二つ目のポイントとして挙げていた、33 km 過ぎ。流石に疲労も出てきていたが、ここで緩めてしまっただけいけないため、集中してペダリングを続けた。終盤に来てからのギアチェンジもスムーズ。

結果、バイクラップ 1 位を獲得、バイク終了時に後続と 1 分 16 秒の差を付けてランに入った。ランでは、一つ順位を落としてしまったが、過去最高となる総合 2 位でゴール。また、東北選手の中では 1 位を獲得できた。

約 500 名の参加者の中でバイクラップをとれた要因の一つが、やはり「ホルメンケミカル」である。レース後のチェーンの状態は、ほとんど汚れが無く、メンテナンスをしなくても良い状態であった。思い描いた



作戦は、スムーズな回転・駆動が最後まで保たれるのが前提であり、これが実行できるよう

にしてくれているのが正にホルメンケミカル。

今後もホルメンケミカルの強みを武器に、バイクのパフォーマンス向上、さらにはトライアスロン全体のレベルアップに繋げていきたい。

岩渕 努